

懐かしい未来新聞

発行：甲賀市
地域共生社会推進課
連絡先 内線 1356
0748-69-2155

甲賀市内の素敵な取り組み 信楽NPOふれ愛パーク NPOで地域を変える 蕎麦×傍(そば)



毎年10月頃、そばの花に実が付きます。圧巻のそば畑。

「懐かしい未来」とは、これまで古い価値観として捨ててきたものの中に、実はこれからの暮らしに必要な大切なものがあつたのではないかと気がつきから使われはじめた言葉です。
この新聞のタイトルには、かつて地域に当たり前のようであつたつながりの温かさを大切にしながらも閉鎖的でない、そして上下関係などに捉われない「水平」で「開かれた」未来志向のつながり創りへの思いを込めています。

毎月15日に
発刊予定

甲賀市では、令和4年4月から「重層的支援体制整備事業」がスタートしました。すべての人が、人と人とのつながりから排除されることなく、安心して暮らし続けられる「地域共生社会」を目指しています。今回は、長きにわたり信楽町西の地で、「そば」という強みを生かして、人と人をつないで活動をされてきた特定非営利活動法人ふれ愛パーク(以下「ふれ愛パーク」)。理事長の杉田光(すぎたひかり)さんにお話を伺いました。以下、杉田さんのお話をそのままの言葉で掲載しています。

☆Aさんの出会い

ふれ愛パークを法人化してから、来年で20年になります。今一度「そばでまちづくり」という自分たちの原点を振り返り、活動を見直していたところに、信楽保健センターの保健師さんから「ひきこもりの男性(Aさん)をふれ愛パークで受け入れてもらえないだろうか?」と相談が入りました。ふれ愛パークの活動拠点の提供者であり、創設時から主要メンバーに車いすユーザーがいたこともあり、常にバリアフリーにこだわり、さまざまな障がいや年齢の方々が対象に活動してきました。地域の多様なニーズに応えることは法人の目指すところであり、今回の相談を引き受けたのも、ごく自然な流れでした。

☆あえて手作業で

そばの実をつくるためには、まずそば殻の皮むきを機械で行い、それから選別をする必要があります。ふれ愛パークでは選別の機械をあえて購入せず、手作業で選別する方法を採用しました。
元々、信楽町内の障がい者作業所にお願ひしていましたが、Aさんにも週に1回火曜日にふれ愛パークに来てもらい、そばの実の選別をしてもらっています。

☆Aさんが変わる

最初は保健師さんと一緒に選別作業をしていましたが、次第に慣れて今では一人で出勤しています。はじめはボランティアとして受け入れていましたが、継続して来てもらえるよう、作業に対して報酬を渡すことを本人に提案しました。Aさんは現在50代で、学校を卒業してから社会に出ていなかったそうです。少額でもお金を取ることで生活にハリが生まれ、本人だけでなくご家族も喜んでおられます。

☆Bさんの特技を生かす

Bさんも長年家にひきこもっており、同じ保健師さんを通じて



てつながることが出来ました。Bさんは字を書くのがとても得意なので、この春の駅前陶器市でそばの店を出すのに自宅で作ったそばのポップ(写真)を描いてもらいました。Bさんにはふれ愛パークに来て作業をすることも提案しています。素敵なポップですね。

自分が感じてきたことを原点に、年齢、障がい、性別の有無に関係なく誰もが安心して暮らし続けられる地域にしていきたい、専門職が近所福祉としっかりつながって、共に課題を解決していく、そしてその積み重ねによって地域を変えていく。これこそが重層的支援体制整備事業のめざすところではないでしょうか。

(レポート・引田)

自称・理想主義者です(笑)。



杉田 光さん

愛知県出身 42年前に信楽に転居。なじみのない場所でも自分にとって住みやすい地域にしていることこそが、自身自身の仕事のエネルギーになることを実感。信楽町社会福祉協議会職員を経て、前・甲賀市社会福祉協議会事務局長。